

自然教育園の 9月に見ごろの植物



ナンテンハギ

武



ツルボ

武



ヤマハギ

武

水



カリガネソウ

武

路



ヤマホトギス

武

路



ナンバンギセル

水



シロバナサクラタデ

水



花



ツリフネソウ

水



ヒガンバナ

武

水

路



ススキ

水



ノハラアザミ

水



実



ヌスビトハギ

武

水

路



武 武蔵野植物園 付近

水 水生植物園 付近

路 路傍植物園 付近

いきもの解説



ナンテンハギ
 <9月中旬～10月下旬>
 葉の形が「南天（ナンテン）」に、花が「萩（ハギ）」に似ていることから名前がつけました。岐阜県などでは、若芽を食用とし、山菜ごはんや和え物に利用します。

武



ヤマハギ
 <6月下旬～10月上旬>
 秋の七草のひとつ。ハギは、万葉集に最も多く登場する植物（141首）で、多くはヤマハギが詠まれたと言われています。

武 水



ナンバンギセル
 <8月下旬～10月下旬>
 南蛮煙管（なんばんぎせる）の名前は、長い柄の先につく花の形が、西洋の喫煙パイプ（南蛮煙管）に似ていることによります。寄生植物で、ススキ、ミヨウガ等によく寄生します。

水



ツツネソウ
 <9月下旬～10月中旬>
 湿地によく群生します。名前は、花の形が帆掛け舟をつり下げたように見えることによります。熟した果実を触ると、パチンと弾けてタネを飛ばします。

水



ススキ
 <9月中旬～10月上旬>
 穂を尾に見立てて「尾花（おばな）」とも呼ばれます。茎と葉は茅葺き屋根の材料とされ、古くからカヤ（茅）とも呼ばれます。葉などに変異が多く、観賞用に栽培もされています。

水



ノハラアザミ
 <9月上旬～11月上旬>
 日本には150種類以上のアザミが、海岸から高山まで生育しています。ノハラアザミは、その名のとおり、野原に生育する代表的なアザミです。根元の根生葉がしっかりしているのが特徴。花には、チョウやハチが多くやってきます。

水

全域でみられる



ホシホウジャク
 アザミやツツネソウなどに吸蜜に来る姿をよく見かけます。素早く羽ばたくのでハチのように見えますが、ガの仲間です。



ツルボ
 <8月下旬～9月下旬>
 土手や草地などに普通に見られます。別名はサンダイガサ（参内傘）で、花の穂が家が宮中に参内するときに、従者がさしかけた傘をたたんだ形と似ることが名前の由来とされます。

武



カリガネソウ
 <9月中旬～10月中旬>
 おしべが長く曲がっている花の形を、雁（かりがね：カモの仲間）の飛ぶ姿に見立てたことが名前の由来。紫色の可愛い花です。植物全体に、ゴマの様な強い臭気があります。

武 路



シロバナサクラタケ
 <9月中旬～10月中旬>
 比較的肥沃な湿地に生えるタデの仲間で、白い小さな花をたくさんつけます。地下で茎を横にのびして増えます。

水



ヤマホトギス
 <8月中旬～9月中旬>
 花に、鳥のホトギスの胸の模様似た赤い斑点があります。花びらが大きく反り返るのが特徴的です。

武 路



ヒガンバナ
 <9月中旬～10月上旬>
 秋の彼岸に真紅の花を咲かせることが名前の由来。稲作が日本に伝来した頃に、飢饉などに備える救荒作物として中国から渡来したとも言われます。地下の茎にアルカロイドを含む有毒植物ですが、水にさらしてでんぷんをとって食用としていました。

武 水 路



ヌスビトハギ
 <8月中旬～9月中旬>
 盗人萩（ぬすびとはぎ）の名前は、実の形が、足袋をはいた盗人がつま先で立って歩いた足跡に似ていることからついたと言われます。

武 水 路

